

学籍番号 [] 氏名 []

龍谷大学 > 理工学部 > 数理情報学科 > 樋口 > 担当科目 > 2016 年 > 確率統計☆演習 II

確率統計☆演習 II 非参照 QuizL01

樋口さぶろお¹ 配布: 2016-04-14 Thu 更新: Time-stamp: "2016-04-14 Thu 07:20 JST hig"

1

離散型確率変数 X の確率分布は次で与えられる.

$$f_x = \begin{cases} \frac{1}{7} & (x = -3) \\ \frac{2}{7} & (x = 0) \\ \frac{4}{7} & (x = +1) \\ 0 & (\text{他}) \end{cases}$$

1. 母平均値 $E[X]$ を求めよう.
2. 母期待値 $E[7X^2 + 1]$ を求めよう.
3. 母分散 $V[X]$ を求めよう.

2

連続型確率変数 X の確率密度関数は次で与えられる.

$$f(x) = \begin{cases} \frac{1}{3\pi} & (-\pi \leq x < 2\pi) \\ 0 & (\text{他}) \end{cases}$$

1. 母平均値 $E[X]$ を求めよう.
2. 母分散 $V[X]$ を求めよう.
3. 母期待値 $E[\sin X]$ を求めよう.

¹Copyright © 2016 Saburo HIGUCHI. All rights reserved.

3

あるドーナツ製造マシンが次々に製造するドーナツの重さ X_i g は、独立同分布にしたがう確率変数である。

製造された 400 個のドーナツの重さを測定したところ、次のようだった。

51g, 52g, 47g, ..., 50g.

ここから標本平均値, 不偏標本分散を計算したところ, $m = 51$ g, $s^2 = 4$ g² だった。

1. 母平均値 $\mu = E[X_i]$ を, 信頼係数 $1 - \alpha = 0.95$ で区間推定しよう.
2. 母平均値 $\mu = E[X_i]$ を, 信頼係数 $1 - \alpha = 0.99$ で区間推定しよう.

この問は過程, 整理不要. 400 は大きいから, t 分布の代わりに正規分布を使ってしまっ
てよい

12 点満点. × N:NG ワード/アイデア, × P:過程なし, × か:考え方の誤り, × き:記号の
誤り, × け:計算ミス

略解

1

1. $E[X] = \frac{1}{7}(-3) + \frac{4}{7}(+1) = \frac{1}{7}$
2. $E[X^2] = \frac{1}{7}(-3)^2 + \frac{4}{7}(+1)^2 = \frac{13}{7}$. $E[7X^2 + 1] = 7E[X^2] + 1 = 14$.
3. $V[X] = E[X^2] - (E[X])^2 = \frac{90}{49}$.

2

1. $E[X] = \int_{-\pi}^{2\pi} \frac{1}{3\pi} \cdot x \, dx = \frac{\pi}{2}$.
2. $E[X^2] = \int_{-\pi}^{2\pi} \frac{1}{3\pi} \cdot x^2 \, dx = \pi^2$. $V[X] = E[X^2] - (E[X])^2 = \frac{3}{4}\pi^2$.
3. $E[\sin X] = \int_{-\pi}^{2\pi} \frac{1}{3\pi} \sin x \, dx = -\frac{2}{3\pi}$.

3

1. 大標本なので、t分布の自由度 ∞ の場合、すなわち標準正規分布で考えてよい。信頼係数 0.95 信頼区間は

$$51 - 1.96 \times \sqrt{\frac{4}{400}} < \mu < 51 + 1.96 \times \sqrt{\frac{4}{400}}.$$

2. 同様に、

$$51 - 2.58 \times \sqrt{\frac{4}{400}} < \mu < 51 + 2.58 \times \sqrt{\frac{4}{400}}.$$

配点 12点.